

● 近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進することを目的として「流域治水プロジェクト」にもとづく取組状況についてのフォローアップ等を行うため千歳川外流域部会を開催した。

日 時：令和4年1月26日(水) 10:00~12:00

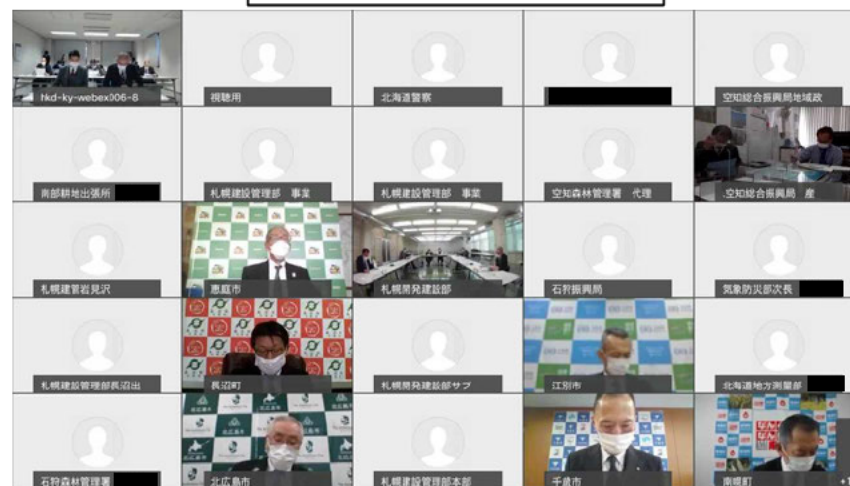
開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局(札幌開発建設部)
北海道森林管理局
(石狩森林管理署、空知森林管理署)
国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター(東北北海道整備局)
江別市、千歳市、恵庭市、北広島市
南幌町、長沼町
北海道(石狩振興局、空知総合振興局)
オブザーバー：气象台(札幌管区气象台)
北海道警察

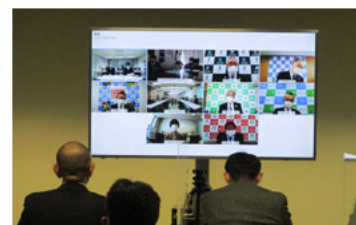
報告のあった自治体の取り組み事例

- ・ 河道掘削、草刈りなど河道内や排水路等の維持管理を実施
- ・ 排水ポンプ装置等の点検および運転講習を実施
- ・ 防災教育や講習会等を通じた水害時の避難行動計画の促進
- ・ 雨水管の機能を増強する下水道工事を実施
- ・ 住宅建築時における浸透枘の設置に関する指導を実施
- ・ 雨水流出抑制や宅地開発行為に関する指導を実施
- ・ 防災訓練や出前講座を実施
- ・ 樹林地の公有化による保水機能の維持
- ・ 治水対策促進期成会との意見交換や情報共有を実施
- ・ 排水機場の運転補助員に対する操作研修を実施
- ・ ダムの維持管理や排水機場の月点検整備を実施 など

地域部会の様子 (WEB開催)



自治体等主な会場



千歳川河川事務所



札幌開発建設部

※写真を掲載しているのは参加者(会場)のうちの一部です

流域治水の更なる推進に向けて

- ・ 北海道開発局としては、今後の気候変動による外力増加や千歳川流域の河川特性を踏まえ、今般法改正となった特定都市河川制度を活用し、『流域治水』の実効性を高め、千歳川流域における浸水被害の防止に向けた対策推進を図って行きたいと考えている。
- ・ 千歳川流域での特定都市河川指定制度の活用について、4市2町の関係部署と引き続き意見交換および十分な調整をさせていただきたい。



江別市長
代理出席
副市長

- 江別市では準用河川・普通河川・集水路の床ざらいや移動式排水ポンプ装置の現地講習を実施している。
- 次年度以降の取り組み予定としては、引き続き事業の継続のほか河川の雑木伐採を実施する。また、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、可能な限り治水事業促進連絡協議会で事業説明を行う予定である。
- これまで行ってきた防災授業等を通じて、小学生の低学年にも防災意識の醸成が図れないかという教員の声もあり、小学校低学年でもわかりやすい小学生向けのタイムラインの作成などに取り組んでいる。



千歳市長
代理出席
副市長

- 千歳市では内水氾濫による農業被害を防止するため、農業用排水路の床ざらいや普通河川の堆積土砂撤去、年1回の草刈りによる維持管理を実施している。また、市街地においては雨水管の機能を増強するための下水道工事等を実施した。
- 千歳市防災マスターリーダーにより、災害時の避難所運営に関する研修など、災害全般について防災教育を実施し、市民の防災意識の向上を図ったところである。これらの対策については令和4年度においても継続して実施する予定である。
- 千歳市の課題としては、市民（とくに比較的若い住民層）の水害に対する防災意識が年々低下していることが挙げられる。このことを踏まえ、防災講座の開催、HPやSNSを活用した情報発信を積極的に行い、住民自らの適切な洪水対応行動を促すことが重要である。



恵庭市長
代理出席
副市長

- 恵庭市では雨水流出抑制に関する指導、開発や工事に合わせた雨水管の整備、排水機場の導水路の床ざらい、田んぼダム等を実施している。次年度以降も同様の取り組みを継続するとともに、ハザードマップの更新や福祉施設の避難計画等の作成も進めている。
- 恵庭市の課題としては、高齢化等による地域の防災活動の担い手不足および、市民の防災意識が高まっている一方で、時間の経過によって危機感が薄れることを懸念している。また、近年は想像を超える災害事例が多数発生しているため、今後も水害の恐ろしさや治水の大切さを伝承しつつ、避難に対する意識や備えの強化、情報伝達の多重化・多様化など、継続的な取り組みが重要である。



北広島市長

- 北広島市では大雨時の河川への流出を防ぐために、市内に18箇所、約22万m³の貯留容量の調整池を開発行為等の造成に合わせて設置してきた。
- 北広島市内の道路整備に伴い、特別天然記念物や野幌原始林を保護するという観点から樹林地を取得している。今後も引き続き自然保護と保水機能の維持に努めつつ、流域治水対策を推進していく。
- 防災技術や経験の伝承について、実際に災害が発生した際、状況に応じた適切な判断や柔軟な対応が取れるかが非常に重要である。また、次世代へ過去の災害に係る記憶を伝承することや現代に対応した新たな防災対策の構築が必要である。



南幌町長

- 南幌町では普通河川の草刈りを通じて流下能力の確保に努め、流域治水対策を図っている。次年度以降は普通河川の河道掘削を実施する予定である。
- 南幌町内に内水対策として5箇所を設置されている排水機場が降雨災害時に地域連携協力の下、年に一度地元の運転補助員に対し研修会を行っており、今年度は機場設備の操作訓練を実施した。
- 過去の災害を風化させないために水害を想定した訓練を関係機関と連携し実施するとともに消防隊による水防訓練等を実施し、防災意識の向上を図っていく。



長沼町長

- 長沼町では今年度の取り組みとして、富士戸ダムの堆積土砂撤去および老朽化した斜樋等の施設改修を実施しダム機能の維持を図っており、引き続き氾濫の軽減に努める。
- 被害減少対策としては、町内9か所にある排水機場の月点検整備を4月から11月まで実施しており、地域との協働・協力が重要であるため、今後も継続的に実施する。
- 防災・減災意識の継承に向けた取り組みについて、長沼町内の地域住民に対して56水害の記憶を継承することや、職員が災害時に躊躇することなく対応できるよう、災害時に対処できる知識と経験を保持することが重要である。